《企 画 書》

提出者　伊藤　翠香（いとうすいか）

【タイトル】

きずなを育む「魔法の声かけ」で子どもの字がみるみる変わる！

書道の専門家・元小学校教師が教える　おやこで美文字レッスン

【概要】

「**子どもにはキレイな字が書けるようになってほしい**」――そう願う方は多いのではないでしょうか？しかし、デジタル化が進む現代では手書きの機会が減り、「書くこと」に苦手意識を持つ子どもも増えています。では、どうすれば字を書くのが好きになるのでしょうか？実は、そのカギは「ちょっとした**声かけ**」と「**文字環境**」にあります。親が少し意識を変えるだけで子どもは自然と書くことを楽しめるようになり、さらには親子の絆も深まるのです。本書は、小学校教員歴20年・書道講師歴14年、2,500名以上の指導実績を持つ「おやこと美文字の専門家」が提案する**【文字×子育て】**のバイブル。家庭で楽しく実践できる美文字メソッドを通じて、親子の信頼関係と「書く力」を育む一冊です。

【想定する読者ターゲット】

① 20代～40代の子育て世代で、デジタル時代の子どもの教育に関心がある人

② 小学校入学前（0歳～6歳）や小学校低学年（1～3年生）のお子さんを育てている人

③ 手書き文字に興味があり、子どもにも「書くこと」を好きになってほしいと願う人

【構成案】

<u>はじめに</u>

・なぜ「キレイな字を書ける子に育ってほしい」と願うのか？

・学びで育む親子の「きずな」――私が考える「おやこ」で「美文字」とは

<u>第1章　親子のきずなが深まる「魔法の声かけ」</u>

・デジタル時代でも「手書き」が求められる本当の理由

・母と私、娘・息子へ――３世代でつなぐ「文字とのきずな」

・子どものやる気エンジンに火をつける「魔法の声かけ」３つのポイント

・【おやこで美文字ワーク】「ひらがなであそぼう」

<u>第2章　「文字環境」と「声かけ」で書く土台を整える</u>

・子どもの発達段階と文字（0歳～5歳）

・誰でもカンタン！「文字環境」と「声かけ」の実践アイデア

・【おやこで美文字ワーク】「文字さがし」

<u>第3章　「声かけ」で鉛筆の持ち方がラクになる</u>

・鉛筆は「持つ前」が９割？！

・「どうやって教えたらいい？」美文字に変わる鉛筆の持ち方と運筆のポイント

・【おやこで美文字ワーク】「手あそび」

<u>第4章　手書き文字で「きずな」をつなぐ</u>

・「字を書くのが苦手‥」発達しょうがいのお子さんへの声かけとサポート

・親子のきずなを深める「手書きの未来」

・【おやこで美文字ワーク】「筆あそび」

<u>第5章　「おやこで美文字」手書きを楽しむワーク〈実践編〉</u>

・おやこで楽しく実践！ワークシート&書き方動画

【サンプル原稿】

第1章　親子のきずなが深まる「魔法の声かけ」

「うちの子、字を書くのが嫌いで宿題をするときもイヤイヤ書いている…」
「学校では字の練習をしているはずなのに、家で書くと雑で読めない…」
「鉛筆の持ち方をどうやって教えてあげたらいいのかわからなくて…」

もしかしたら、こんな悩みをお持ちではありませんか？

今の時代、手で書くことが日常から遠ざかっています。スマートフォンやタブレットの普及により、私たち大人も、かつては毎日のように手を動かしていた「書く」という行為を、気づけばキーボードやフリック入力に置き換えています。そして、デジタル教科書やタブレット学習が当たり前となりつつある子ども達にとって、手書き文字は、ますます「必要のないもの」となりつつあります。

「手書きの文字はこれからの時代、本当に必要なの？」
そんな疑問を抱く方もいるかもしれません。しかし、実はこのデジタル時代にこそ、手で書くことの価値がますます重要になっています。

○デジタル時代でも「手書き」が求められる本当の理由

研究によると、手書きには 脳を活性化し、思考力や記憶力を高める効果 があることが明らかになっています。手で文字を書くことで、前頭前野が刺激され、深く考える力が育まれるのです。カリフォルニア大学の研究では、キーボード入力よりも手書きのほうが より記憶が定着するということも証明されています。

また、写経などの「書く」行為が、心を整えるマインドフルネスの効果を持つことも広く知られています。

さらに、手書きの文字には、活字にはない「心を伝える力」があります。「字は心を映す」と言われるように、手書き文字には、その人の気持ちや個性が表れます。心を込めて書かれた文字には、温かさが宿り、見る人に気持ちを伝える力があるのです。

とはいえ、「手書きを大切にしたい」と思っていても、「子どもに字を書かせようとするとすぐに嫌がる」「どうやったら楽しく書けるようになるの？」と、悩む方も多いのではないでしょうか。

実は、子どもの字が変わる方法は、まず**「声かけ」から変える**ことなのです。

○母と私、娘・息子へと受け継がれた「文字のきずな」

私が書道と出会ったのは、小学校に入学する前のことでした。ある日、母が「一緒に書道を習ってみよう」と近所の教室へ連れて行ってくれたのです。母には「娘には字で苦労はさせたくない」という想いがありました。

初めて筆を持ち、正座をして「さくら」と書いたとき、先生がこう言ったのです。

「この子は書道の先生になれるね！」
　私は驚いて母の顔を見ました。母はとても嬉しそうに笑っていました。その瞬間、照れくさいような、誇らしいような、温かい気持ちになりました。
　それから、私は書くことに夢中になり、先生や母に褒められることで自信につながりました。学校の先生や友達にも「字がきれいだね」と言われることが増え、書くことがどんどん楽しくなっていったのです。

　そして、時を経て、私は自分の子どもと一緒に書道教室に通うことになりました。親子3代で「書くこと」を楽しんだ時間は、私にとって何よりも大切な思い出となりました。親子で褒め合い、認め合う時間が、何よりも「きずな」を深めるのだと実感した瞬間でした。

○子どものやる気エンジンに火がつく「魔法の声かけ」３つのポイント

　「この子は書道の先生になれるね！」
　先生のたったひと言が、私の人生を大きく変えました。それほど、大人の「声かけ」には、子どもの心に強い影響を与える力があります。
　その後、教員を経て書道の先生となった私は「声かけ」を意識しました。たった一言でも子どもは強く印象に残りますし、意欲や集中力もグンとアップします。

　では、実際どのような「声かけ」をしたらよいのでしょうか？
　「声かけ」で大切なのは、最初は「**やる気を育むこと**」です。つい子どもの字を注意してしまいがちですが、まずは「**字を書くことが楽しい**」と感じることが重要です。書くことが楽しくなり、子どものやる気エンジンに火がつけば、自分から取り組める子になります。書く技術も大切ですが、**やる気を育むことが最優先**なのです。

　ここでは、字を書くことが苦手な保護者の方でも実践しやすい、子どものやる気エンジンに火がつく「**魔法の声かけ」３つのポイント**をご紹介します。

①　「考える力」を引き出す「声かけ」で学ぶ喜びを！――「なぜ？」「どう思う？」

子どもの脳は、新しい発見があるとグンと成長します。例えば、「”つ”と”し”の字で、似ているところはどこかな？」「このひらがなは、どの漢字からできたと思う？」「どうして、この向きに払って書くんだろう？」といった「なぜ」を問いかけることで、子ども自身が考え気づき、発見します。「わかった！」という喜びを感じる機会を作ってあげることで主体性も育ちます。

② ３つの「褒めルール」で絆を育む「声かけ」を！――心の安定が「やる気」につながる

　子どもは、大人から褒められることで自信や自己受容感が育まれます。

- ☑ルール１「事実を褒める」
  子どもをよく見て、できていることに目を向けましょう。
- ☑ ルール２「過程を褒める」
  結果だけでなく、その途中の過程も見守ってあげましょう。

☑ ルール３「成長を褒める」
誰かと比べるのではなく、日々の成長を喜び合えたらよいですね。

例えば、「まだ３行しか書けていないの？」ではなく、「もう３行も書けたんだね！」と、できたことに目を向ける「声かけ」が大切です。

③ 共に学ぶ「声かけ」でやる気アップ！——「一緒に○○しよう」「○○を教えて！」

一緒に学ぶことでも意欲的になれます。
例えば、「お母さんも一緒に書いてみるね」「書き順を教えて！」と伝えたり、「文字探し競争をしよう！」とゲーム感覚を取り入れて遊んだりする中で、子どもは書くことや学ぶことを、大好きな家族と楽しめる時間になります。

「親子のきずな」を育む「魔法の声かけ」で、子どもの反応が変わり、まず書くことが楽しくなります。書くことが楽しくなると、字も変わり、次第に自信もついてきます。
ぜひ、お子さんと一緒に簡単にできる「おやこ美文字ワーク」で、書く時間を楽しんでみてください。

○おやこ美文字ワーク「ひらがなであそぼう」

子どもの意欲や「わかった！」という発見を引き出すことのできる、文字を使った簡単なゲームを２つご紹介します。

「ひらがなでビンゴ」

ビンゴの枠を書きます。（９マスがおすすめです）「はらいのあるひらがな」といったお題に合う字をマスに書き入れて、お互いに一つずつひらがなを発表しながら、通常のビンゴのように遊びます。「このひらがなは、はらうのかな？」と、書く時にも字形や細かな部分に意識を向けられるようになります。

「ことばのかいだん」

頭文字が同じ言葉を書くゲーム。
「あ」「あり」「あしか」「あめんぼ」のように、１文字～４文字までの言葉を集めます。楽しみながら語彙を増やしたり、同じひらがなを繰り返し練習したいときにおすすめです。

以上です。よろしくお願いいたします。